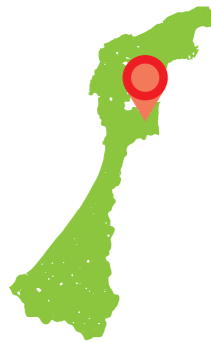


我が市町の民児協

このコーナーは石川県内に19ある市町の民児協の紹介です。
今回は**七尾市民生委員・児童委員協議会**です。

七尾市民児協の概要

人口：46,607人（令和6年11月末現在）
単位民児協数：15地区
民生委員・児童委員数：179人
主任児童委員数：23人
会長：守 世志子



七尾市民児協は、15地区単位民児協により組織され、地区単位民児協会長を中心に運営しています。また、地域福祉推進部会、高齢・障害福祉部会、児童福祉部会の3部会を設置し、部会ごとに担当理事が研修会を企画し学びを深めています。主任児童委員は隔月に研修会を開催し情報の共有、意識向上に努めています。

七尾市

本事業として月に2回市役所において「市民くらしの相談」を担当し、市民からの日常の困りごとの相談に対応しています。



事業・活動等について

七尾市民児協は、現在令和6年能登半島地震の教訓を踏まえ、要支援世帯への声掛け見守り訪問活動を積極的に行っています。訪問時には七尾市社協が作成した「緊急ファイル」の設置と確認を進めています。緊急ファイルの設置により、緊急時などは関係者が連携して対応を進めることができます。また災害対応につながることも期待されます。

地区民児協活動では、地域包括支援センターと連携した社会資源をみんなで考える「地域連絡会」の取り組みをはじめ、災害時における要援護者への支援について関係機関と話し合いを始めています。

昨年9月から現在までに全国の民児協から視察交流会の依頼がありました。発災から現在に至るまでどのように民生委員・児童委員として活動し、見守り安否確認を行ったのか、在宅の支援など災害時の具体的な活動について意見交換をしました。平時から行政や社協、地域機関との連携の大切さを改めて認識しました。

県内外よりお見舞いや励ましのお言葉に感謝申し上げます。



の子どもたちとのかわりを深めて、健全な育成、見守り活動に役立たせていかなければと強く感じました。

総務委員会 委員長 **高野 善一**（金沢市）

ご意見・ご感想をお寄せください。
発行日 令和7年2月28日
発行者 石川県民生委員児童委員協議会連合会
編集 石川県民生委員児童委員協議会連合会 総務委員会
事務局 〒920-8557 金沢市本多町3丁目1番10号
（石川県社会福祉協議会 地域福祉課内）
TEL:076-224-1212 FAX:076-222-8900

編集後記

今回富来小・中学校、志賀町民児協のご協力を頂き、学校側と民児協との懇談会を視察。参加させて頂く機会を得られたことは、誠にありがたく大変参考になりました。

学校と地区民児協との強い繋がりのもと、地域の子どもたちへの見守り、育成に役立たせていることは素晴らしいことと、感心しました。私は今迄、子どもの見守りに関して、高齢者へのそれに比べて、低かったように感じています。まず今の地域の子どもたちの現状を知る為、学校との繋がりを深め、各行事にも参加する機会を得て、地域

Learn together

（らーん・とうげざー 共に学ぼう）

～助け合う 心でつなごう 地域の未来～

石川県民生委員児童委員協議会連合会 広報誌

第8号
発行
令和7年
2月28日

災害に油断しないで

石川県民生委員児童委員協議会連合会 会長 **三 国 外喜男**

今年の正月は昨年の能登半島地震、奥能登豪雨を振り返る映像がテレビから流れました。復興にはほど遠いものだと感じますが、被災者の毎日に笑顔が見え、能登のコミュニティの力も見えます。これが人間の本能なのだ実感しました。

私は福井地震の被災地である石川県加賀市で生まれ育ちました。直接被災していませんが、小学校の避難訓練の日には地震発生の日であったことを記憶しています。自然災害は我々の生活に容赦無く降りかかってきます。それ故に災害

に備えインフラや住居を補強することは勿論ですが、人と人のコミュニティの力を考えること、そして後世に伝えることを含めて、一人一人が災害発生に油断しないようにすることだと思います。



救護施設ときわ苑視察研修を終えて

障がい福祉委員会 委員長 **大 島 秀 文**

年が経つのは早いものです。あの忌まわしい地震・水害による大災害から、もう一年が過ぎましたが災害現地は復旧・復興にはまだまだ程遠い状況にあります。

私のいる穴水地域は、近隣の市町から見れば被害度は多少規模が小さいと言えますが未だ被災建物の撤去作業が続いています。

私も棲家を失いましたが、再興に向けて前を見て歩みを緩めず自ら気持ちを鼓舞しながら日々進んで行きたいと思っています。

この度は県内をはじめ全国各地より多くの方々より温かいご支援お力添えを頂きました。被災者の立場になって初めて多くの事を学びました。また自分なりに気付いた事も多く有り今後の活動の糧として自分なりに生かして行ければと思っています。

冒頭にこのことを言わずにはならないと思ひ書かせて頂きました。

さて、話は変わりますが先日、県民児連障がい福祉委員会がかねてから障がい児・者が利用している施設の視察研修先を探して居ましたところ、金沢市小坂地区単位民児協会長で現県民児連の理事高野善一氏のご協力を頂き、三谷の里ときわ苑にて実施する事が出来ました事に御礼申し上げます。

私にとって今迄に幾つかの特別養護老人施設や介護福祉施設は見て来ましたが今回初めて救護福祉施設の視察研修で感じた事は、古木の桜に囲まれた閑静な高台に一見して歴史を伺わせる施設は、

昭和6年に精神病者家庭困窮打開策として精神病者を保護する目的で設立され、幾度かの組織変更を経て医療と救護の運営にあたって居るとの事でした。

広い館内を隈なく案内された後に意見交換の時間が設けられ当該施設職員と障がい福祉委員会の各委員と和やかな中に色々な意見の交換が出来ました。

私は福祉施設に課せられた地域における公的貢献についてお聞きしました。

既に三谷地区にはお出かけサロン参画により車両の貸し出し、地域の清掃活動や地域のお祭りなどにも参画するなど地域住民とのコミュニケーションを深め施設の存在と理解に努めておられるとの事でした。

施設の利用状況は身体障害・知的障害・精神障害・身体知的・身体精神・知的精神・身体知的精神・その他と多岐多様であり施設では個々にあたり対処されて居ると説明を受けました。

これまでも障がい福祉委員会で障がい児・者に対する理解を深めることに委員間で討議を重ねて来ましたが今回の視察研修で更に多岐多様にわたる障がい児・者の実態を見て私自身まだまだ理解していない事が多くあると痛感致しました。

今後は民生委員児童委員として障がい児・者と如何に寄り添った活動が出来るのか、障がい福祉委員会で今回の視察研修で障がい児・者について色々と学ぶ機会にもなりました。

★ 志賀町民児協と 学校との懇談会視察

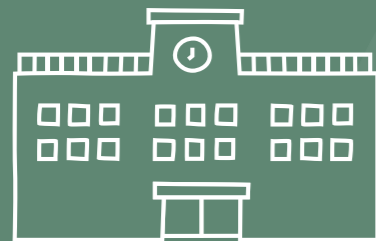
民生委員・児童委員のなりて確保のためには民生委員の活動内容について正しく知ってもらうこと、およびあらゆる年代に民生委員・児童委員の存在を知ってもらうことはとても重要であります。

志賀町民生委員児童委員協議会（以下志賀町民児協）の取組として、志賀町内の小学校・中学校を訪問し授業参観や、学校側との情報交換といった交流の場を設けております。

今回は、志賀町民児協が富来小学校・富来中学校を訪問した時の様子を、12月5日に総務委員会のメンバーで視察させていただきました。



令和6年能登半島地震以降、学校は避難所として使われており、休校となっていた。
富来小学校の校舎の被害が大きいため、富来中学校の2階にて受け入れてもらうことで1月25日より再開することができた。水が十分に使えないという環境の中でも工夫して授業や学校行事に取り組んでいった（10月末より水道復旧）。



視察してみても感想

民生委員児童委員と学校の関係性に驚き、とにかく凄いと感じました。
学校側が懇談会について、継続していくことにどのように思っているのかを別の機会に知りたいと思います。継続してきた委員さん方に敬意を表したいです。

富来小・中の生徒の皆さんの元気いっぱい授業に取り組んでいる様子を拝見し、そしてタブレットに電子黒板を利用しながらの授業は、現代の学校の姿と思い、ただただ感心しました。
その後の懇談会では、各学校の校長先生、教頭先生の丁寧な説明があり質疑応答も、しっかりとした答えがあり、とてもよい関係性を築いていると感じました。その中で、ヤングケアラーの質問に対しても説明されており、印象に残りました。

何十年ぶりの授業参観で、小学生、中学生が一生懸命勉強しているなと感じました。
小・中学校の校長先生、教頭先生の話から、真摯に子どもたちと向き合っていると感じました。
子どもたちは元気に見えましたが、震災の影響がまだまだ残っているようです。
どこの市町もそうなのですが少子高齢化が進み、子どもが少なくなっているクラブも自分の好きなことができないようになってきているのが残念です。
志賀町民児協協議会が学校と上手に交流されているのがすごい事だと感じました。私の地区も何かできればと思いました。

小学校の児童たちが、慣れない仮校舎しかも中学校の校舎で学ぶことで、どのような影響があるか心配していましたが、それぞれ不便を感じつつも工夫して学校生活を送っていることに労を労りたい。



子どもたちの活発な様子や授業を楽しんでいる様子を見られたことで、被災以降、子どもたちの精神状態や安心・安全に対して、日々気をかけている様子がかえりました。

また、困りごとを抱える世帯に対する認識や取り組みについて、志賀町民児協と小学校・中学校の両校長先生・教頭先生の間で情報共有を行っている場に同席出来て、改めて結びつきの強さが、地域づくりの基礎になると感じました。